

左が行く

明日から実践したい
気づきと学びが
ここにある。

第5回

毒蝮三太夫さん

楽しいジジイの見本は俺だ！

毒舌から学ぶ、

コミュニケーション力！

大事なのは『構い合うこと』

『毒舌』と『悪口』の違い

「ジジイ」「ババア」「くたばりぞこない」。こんな言葉を投げかけられて、高齢者はどんな反応をすると思いますか？
…なんと、手を叩いて笑っているんです。嫌がるどころか、むしろ進んで言われようとする。不思議ですよ。

もちろん、誰が言っても喜ぶわけではありません。なぜ喜ぶのか——それは、『介護言葉』のプロである毒蝮三太夫さんだからこそできる『毒蝮流毒舌コミュニケーション』に答えがありました。そんな毒蝮さんに今回、高齢者との

コミュニケーション方法やこれからの介護業界への期待について、理事長・左が赤坂TBSを訪問し、毒蝮節を直接聞かせていただきました。

左 今日はありがとうございます。ラジオを聴いたり、テレビで拝見したりするなかで、毒蝮さんの高齢者との関わり方は、他には真似できない、でも参考になるコミュニケーション力が備わっていると思っていました。介護をする側ではない、第三者目線の高齢者との関わり方などについて、お話を聞かせていただきたいと思えます。

毒蝮 俺は介護とか看護というジャンルの仕事の人たち、社

会福祉士やケアマネージャー、

理学療法士などからみると悪

役だよ。なんせ弱者であるはずの高齢者に対して「うるせえこのババア」とか「くたばりぞこない」なんていうことを言っちゃってるからね。俺は場末の江戸っ子で、昔から「おばあちゃん」なんて呼んだことはなかったから、自分にとっては自然なことなだけどもね。でも、他にいないでしょ、こんなコミュニケーションの取り方する人。介護職は仕事だから、お客さんである高齢者に対して親切丁寧な受け答えをしているけど、俺は介護する人ではないからね。だからこそ俺は年配と関わるのに一番コミュニケー

ションを大事にしているんだよ。

年寄りには勘が鋭いから。たぶん高齢者も、俺の言う「くたばりぞこない」とかは、『悪口』じゃないと分かっているから喜ぶんだと思うよ。『悪口』じゃなくて『毒舌』。言われた側は怒るところかむしろ笑っている。この2つの違いって、すごく大事だと思うんだ。何で俺がババアとかくたばりぞこないとか言っても相手が怒らず笑うのかというと、言葉に悪意がないからだ。そもそも俺が言うババアの意味は『チャイニングで貴族がある、素敵な人』のことを指すから。それに相応しい人にしか言わないよ。あと、もちろん悪意がない

ただじゃダメだけどね。優しいさもなければ、相手は悪口だと思っちゃうよ。年を取れば経験豊富な分、敏感になるから。これは学校で教わったり、職場で学んだりするものじゃなくて、環境で培われたものだ。

左 毒蝮さんだからこそできるコミュニケーション方法ですよね。「くたばりぞこない」という言葉にも、避けがちな『死』を連想するような言葉をあえて使うことで、むしろ人間誰でも起こる避けられない現実を、逆に笑い飛ばすジョークとして成り立っている。これはなかなか真似のできないコミュニケーション方法です。その部分について、もう少し噛み砕いて説明してもらうことはできますか。

毒蝮 俺にとってコミュニケーションは、相手を『構う』ことを意味するんだよね。昔はFAXもなければコピー機も、留守電もない。もちろん携帯電話もない。今考えるところでも不便だよ。でも、1丁に頼らなかった時代もそれはそれでよかったと思うんだよ。

顔と顔を見合って相手を構うことに力を注いだ。それですごく大切なことだと思うんだよ。介護っていういろいろこい

いことを言うけど、介護も看護も看病も、結局はみんな構うことだから。コミュニケーションは構い合い。言うなれば『おもてなし』だよ。下町出身のやつって、構うことがうまいんだよ。特に俺は貧乏だったから、構わないと食いたいのを食えない時代を生きてきたから。愛想とか言葉遣いとか態度とかを練っていかねばならぬまいこと生きられない時代で生きてきたから、そのときに毒舌のベースができたんだろうね。

今の若者たちに

必要なこと

毒蝮 若者が高齢者と接するときに今一番気になっているのが、高齢者の過保護な対応。多くの人がこれに陥っているんじゃないかな。人間として大先輩であり、傷付きやすい人たちだと思って、下から下からいかなければならないとか尊敬するに値する人だと思わ

なっている。車椅子の人がいたら「大丈夫ですか」と、心から言っているかどうか。構い方がうまいやつと下手なやつがいるけれど、過保護の裏には、本当は構いたくないけどお金をもらっているとか、ケガしているから、病氣しているからとか理由が付いてきて、お互いに本気じゃないコミュニケーションが出来上がってしまうんじゃないかな。一方的な発信じゃなくて、相手から好意を持たれる発信をしなければ、コミュニケーションは成り立たないと思うんだよ。それは、介護する側もされる側も、どちらの努力も必要ってこと。

左 相手からも好かれる人ではないかもしれないというのは確かに重要ですよ。一方的な介護ではただの業務であって、お互いに『構い合う』ということにはならないです。

毒蝮 構い合うって難しいかもしれないけど、そもそも高齢者って、面白いんだよね。その面白い部分をもっと引き出してほしいと思うよ。それができると構い合うことが自然とうまいくと思うけど。



「くたばりぞこないのジジイ、ババア。死ぬのを忘れたのか」。刺激の強い一文ですが、その言葉の奥には深い意味と愛情があることをお分かりいただけるでしょうか。そんな『介護言葉』のプロとしてテレビ番組でも活躍中のタレント、毒蝮三太夫さん。ご自身も81歳という年齢にあって、高齢者の本音と毒蝮流コミュニケーション方法の極意を伺ってきました。（文中敬称略）

今の若い子や職員は、そこを知らない人が多い気がするな。潜在的に高齢者は弱者と思われがちだけど、百人百様だから。それと、高齢者の話は長いし繰り返すから嫌だという人もいるけれど、そういうことを若者や家族が言うから高齢者は喋らなくなる。喋らなくなるからうまく構い合えなくなるんじゃないかな。ある高齢者が「六十・七十鼻垂れ小僧、八十・九十真つ盛り、百を越えたらそろそろ考えよう」と言っていて、やっぱり高齢者って面白いなと思っただよ。若い人たちからは老い先短いようにみえても、当の高齢者たちは100歳を越えたらやと老後を考えればいいと思っている人もいます。もちろんただ長生きをすればいいってんじゃない、元気で長生きが大切だけだね。俺もそうなりたいし、楽しいジジイの見本でいたいと思うよ。

高齢者たちに必要なこと

毒嬢 若者のことをいろいろ言ってきたけど、もちろん高

齢者にも問題はああるよ。例えばお金を払っているんだから面倒を見てもらうのは当然という考え方。介護保険、国民保険、その権利だって今の若者が働いているお金を使っているわけだから、感謝しないと。むしろ少子高齢化が進んだ結果、将来の若い人のことを思うたとき、せめて若い人の見本になるようなチャージングな年寄りになれよ、と俺は思うね。若者に「あんな歳の取り方をしたいな」と思わせてあげられなきゃ、老後に期待がでないでしょ。寝たきりになつてもチャージングな人はチャージング。そんな豊かな人間性を、若いときからつくっておけると、その人自身も良い歳の取り方をするんだよね。そういう若者をつくるのに高齢者側で必要なのは、若者に感謝をすることだな。金銭の問題ではなくて、気持ち・態度・表情。素敵な笑顔と一緒に「ありがとう」「お世話になりました」と言葉で伝えること。もし言葉で伝えられないなら、ニコリ笑うことだけでも職員の気持ちは大きく変わると思

うんだ。これは顔と顔でしか伝わらないことだし、ここが伝わることで「構う」ということが成立するんだよ。「この人は自分の味方なんだな」と思わせることができたらチャンス！ 懐に飛び込んじゃえば、コミュニケーションはうまくいくんだよ。逆に、若い世代も高齢者を弱者と見過ぎて、低姿勢で「何を言われても仕方がない」と思い過ぎだよ。元気な年寄りをつくっていかないと、老々介護ができなくなっちゃうよ。

左 気持ちを伝えるって、大切ですよ。お互いに感謝の気持ちを伝えるには、やはり円滑なコミュニケーションは必須です。毒嬢さんは、相手と構うことがコミュニケーションとお考えのことですが、そこに高齢者への深い愛情を感じます。

毒嬢 愛情、と言われると恥ずかしいね。要は俺が罵詈雑言を言っても通っているのは、やはり相手を構っているから。そしてそれが相手に伝わっているから。構うことは、愛情がなければできないからね。そ

こが違いだと思うよ。逆に、愛情の反対は『無視』だと思ふな。無視することが相手にとっては一番きついことじゃないかな。やっぱりコミュニケーションでは心が大切。心があるかないかは、高齢者には分かるからね。俺が授業で学生に教えるときは、いつも3つのKを伝えているんだ。3つの『掛け』という意味のK。一つ目は『笑顔で話し掛ける』二つ目は『肩に手を掛ける』三つ目は『気に掛ける』。これができるできないかで、高齢者が自分のことを味方だと思ってくれるかどうか変わると思うね。介護職員は真面目なレッテルを貼られることがあると思うけれど、センスや遊び心って、生まれついてはこないから

ね。そういう部分も、経験していくしかない。

死に近い仕事をしている人は神である

毒嬢 介護職というのは、医者や看護師とは違い、際限がない仕事。多くの場合、ゴールは『死』という現実がある。だからこそ、仕事とか商売という感覚だけだったら続かない業界だと思うな。俺は『死に近い仕事をする人は神である』と思っているんだ。それだけ大変で尊い仕事なんだから『給料が安い・仕事がつらい・社会的な地位が低い』といった介護を取り巻く問題を、根本的に国からは正していかないと、これから大変だと思うよ。かつよくやること



▲ 左理事長、毒嬢さん

介護とは思っていないけれど、一生懸命介護をして、汗水たらして、なのに高齢者に殴られて傷だらけの介護職もいるんだよ。高齢者が介護職を殴っても事件にはならないんだから。だから、介護職たちは怒らない、逆らわない、いつも笑顔で元気。こんな職業だったら、普通の職の倍の給料をあげてもいいじゃない。

ある先生が、こんなことを言っていたよ。「介護はやさしさ、愛情、気の遣い方。だけど諦めも大事」と。諦めないから、戦つてしまふ。では『諦める』とは何を指すのかというところ。過去を忘れることだと俺は思うな。認知症の人だったら特にそう。諦めと忘却を同時にやっついていかないと介護は行き詰

まる。過去の栄光を忘れてあげることで、今の状態を認めてあげること、そして諦めること。これがうまくいかないと、充足した介護とはいえないんじゃないかな。介護は深いねえ。

を持って人を助けているけれど、完璧を求めすぎると、下手したら介護の介の字が後悔の「悔」になつてしまふ。俺は快適の意味の「快護」になつてほしいと思うんだよね。そんな介護が待っているなら、介護のイメージも変わるよね。俺も、90歳になるのが今から楽しみだよ。

PROFILE

毒嬢 三太夫

(どくまむしさんだゆう)

本名：石井 伊吉(いしい いよし)。1936年3月31日生まれの81歳。俳優、タレント、ラジオパーソナリティ。東京は品川生まれの浅草育ち。12歳で舞台デビュー。『ウルトラマン』『ウルトラセブン』の隊員役で人気を博す。TBSラジオの生放送は48年間続く長寿番組。NHK・Eテレ『介護百人一首』の司会も務める。現在、聖徳大学客員教授。
<http://www.mamuchan.com/>

